

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	富山高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	機械システム工学科	夜・通信			11	11	7	
	電気制御システム工学科	夜・通信			12	12	7	
	物質化学工学科	夜・通信			8	8	7	
	電子情報工学科	夜・通信			14	14	7	
	国際ビジネス学科	夜・通信			22	22	7	
	商船学科（航海コース）	夜・通信		9	6	15	7	
	商船学科（機関コース）	夜・通信		9	7	16	7	
	エコデザイン工学専攻	夜・通信			26	26	7	
	制御情報システム工学専攻	夜・通信			6	25	7	
	国際ビジネス学専攻	夜・通信		19	14	33	7	
	海事システム工学専攻	夜・通信			4	23	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校ホームページ： https://www.nc-toyama.ac.jp/students/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	富山高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kosen-k.go.jp/about/release/index.html#yakuinmeibo>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	平成28年4月1日～ 令和6年3月31日	理事長
常勤	東京工業大学理事・ 副学長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	研究・産学連携 情報システム
非常勤	東京大学教授	平成26年4月1日～ 令和2年3月31日	男女共同参画 推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	富山高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>設置者である独立行政法人国立高等専門学校機構(以下、高専機構)が、到達目標、ルーブリック、教育方法、授業計画、評価割合からなる全高専統一のシラバスフォーマットを作成している。シラバスの作成過程は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月中旬 高専機構にて年度更新 ・12月末まで 次年度授業計画一覧を作成し、それに基づき授業マスタ作成 ・新年1月末まで 各教員にてシラバス入力 3月末まで 高専機構ならびに本校教務主事・主事補にて入力状況(100%)を確認 4月1日 高専機構にてシラバス外部公開 <p>なお、実務経験のある教員等による授業科目については、シラバスの教育方法の項目にその旨が記載されている。</p>	
授業計画書の公表方法	富山高専HPにて公表 https://www.nc-toyama.ac.jp/students/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業開始第1週にシラバスを配布しガイダンスを行っている。定期試験後、シラバスに記載された評価方法・評価割合に従って、ルーブリックで設定された到達レベルに対する評価を行い、客観的に単位の認定を行っている。</p> <p>「富山高等専門学校学則」、「富山高等専門学校学業に関する規則」 「富山高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則」に則り、授業計画(シラバス)にてあらかじめ周知されている評価割合に基づき、厳格かつ適正に単位授与または履修認定を実施している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校では、定期試験結果（各科目100点満点）の平均点を成績評価の指標としており、詳細を「学業成績評価方法に関する申し合わせ」に定め、その内容を公表している。定期試験後、同申し合わせに記載された方法で学生の順位付けを行っている。</p> <p>(本科) 平均点は、評点の和を、科目数の和で除する。対象科目は、履修した授業科目とし、不合格科目、未履修となった科目（0点として計上する）も含める。ただし、評価が評点によらないものを除く。クラス順位は、平均点に基づくものとし、学科・コースごとに順位付けを行う。</p> <p>(専攻科) 平均点は、入学時からの評点の和を科目数の和で除する。対象科目は、履修登録した科目とし、不合格科目、欠課時間数により未履修となった科目も含める。ただし特別研究Ⅰ、Ⅱ及びインターンシップA、B並びに成績評価が100点法によらない科目は除く。なお、未履修の科目は0点とする。順位は、平均点に基づき算出し、専攻ごとに行う。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>全体及び各教室の掲示板で学生に周知している。 本校ホームページにおいても公表している。 https://www.nc-toyama.ac.jp/students/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各学科の卒業認定の方針、各専攻科の修了認定の方針は、次のとおり</p> <p>機械システム工学科</p> <p>機械システム工学科は、機械系、機械システム系の知識、技術を総合的に学習し、機械設計、技術開発等を手がける創造性・探究心豊かな技術者の育成を目的とし、所定の単位を修得し、かつ以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機械を構成する材料の物性、製造方法、加工・生産技術や、機械設計に欠かせない材料、熱、流体、機械の力学、電気・情報処理など、幅広い知識と技術、応用力を身につけ、それらを応用したものづくりができる。 2. 課題発見能力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を持ち、他者と協働できる。 3. 豊かな教養と倫理観を身につけ、社会に貢献できる。 <p>電気制御システム工学科</p> <p>電気制御システム工学科では、電気工学・機械工学・情報工学の知識、技術を総合的に身につけた実践的技術者の育成を目的として、所定の単位を修得し、以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電気工学、機械工学、情報工学の知識、技術を総合的に身につけ、それらを応用したものづくりができる。 2. 課題発見能力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を持ち、他者と協働できる。 	

3. 豊かな教養と倫理観を身につけ、社会に貢献できる。

物質工学科

物質化学工学科では、所定の単位を修得して以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定します。

1. 物質化学の中心分野である有機化学，無機化学，分析化学，物理化学，生物化学の知識・技術を身につけ，それらを応用した物質創成や技術の開発ができる。
2. 課題発見能力，課題解決能力，プレゼンテーション能力を持ち，他者と協働できる。
3. 豊かな教養と倫理観を身につけ，社会に貢献できる。

電子情報工学科

電子情報工学科では、所定の単位を修得して以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定します。

1. 電気電子工学，情報工学，通信ネットワーク工学の知識・技術を身につけ，それらを応用したものづくりができる。
2. 課題発見能力，課題解決能力，プレゼンテーション能力を持ち，他者と協働できる。
3. 豊かな教養と倫理観を身につけ，社会に貢献できる。

国際ビジネス学科

国際ビジネス学科では、所定の単位を修得して以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定します。

1. 経営学，外国語と異文化理解，情報処理の知識，技能を総合的に身につけ，それらを応用したビジネス活動ができる。
2. 課題発見能力，課題解決能力，プレゼンテーション能力を持ち，他者と協働できる。
3. 豊かな教養と倫理観を身につけ，社会に貢献できる。

商船学科

航海コースでは航海学，船舶運用学，海事法規，商船実務などを，機関コースでは主機・補機，電気・電子，機械，商船実務などの知識・技術を身につけ，それらを応用した船舶運航やマネジメントができる。

1. 経営学，外国語と異文化理解，情報処理の知識，技能を総合的に身につけ，それらを応用したビジネス活動ができる。
2. 課題発見能力，課題解決能力，プレゼンテーション能力を持ち，他者と協働できる。
3. 豊かな教養と倫理観を身につけ，社会に貢献できる。

エコデザイン工学専攻

(概要)

全ての技術は環境との共存に配慮しなければならないとの理念のもと、本専攻では、エンジニアに必要な工学全般の技術とともに、環境に配慮した技術、すなわちエコテクノロジーについて教育を行います。また、人・地球との共生の精神を理解し、グローバルエンジニアとしての素養を有する人材を育成します。このような人材育成目標に到達するために、所定の単位を修得し、かつ以下のような能力と素養を身につけた学生に修了を認定します。

- A 工学全般の基礎知識を有し、技術力に優れたグローバルエンジニアの育成
- A-1 英語による 200 語程度の短い技術文が書け、英語で技術に関する簡単なコミュニケーションをとることができる。
- A-2 設計・システム、情報・論理、材料・バイオ、力学、社会技術に関する基礎知識を理解し、簡単に説明することができる。
- A-3 実験を計画・実施し、データの正確な解析に基づいて工学的に考察し、かつ論理的に説明することができる。研究においては与えられた制約の下で必要な援助を得て計画的に研究を進め、期限内にまとめることができる。
- A-4 自分自身が伝えたい情報・意見を日本語で論理的に記述することができ、またプレゼンテーションにおいて発表・討議することができる。
- A-5 工学的な諸問題に対処する際に必要な数学、自然科学及び情報の基礎的知識を理解し、それらを適切に活用することができる。
- A-6 核となる専門分野の既存技術を説明でき、社会から要求されている問題や実務上の問題を見出し設定することができる。
- B 広い視野を有し、将来、研究・開発をリードする能力を備えた人材の育成
- B-1 専攻科の特別研究や本科の卒業研究を通して、研究・学習状況の把握や記録を習慣づけ、自主的・継続的に学習することができる。
- B-2 自分とは異なった文化圏から来ている人々と交流し、他者・他国の立場にたって物事を考えることができる。
- B-3 日本語及び英語による技術論文を、著者の意図に沿って読解し、その内容を説明できる。
- B-4 正解が一つとは限らない問題に対して、グループで検討・考察し、問題点を抽出、実現可能な解を積極的に提案・評価することができる。
- B-5 工場見学を通じてその地域の産業構造を理解し、説明することができる。
- B-6 自分自身の生きている現代社会について、歴史を踏まえて経済・法律・習慣などの面から説明することができる。
- C 人・地球との共生の精神を有した人材の育成
- C-1 幸福・福祉や豊かさなどの多面的な概念を認識し、自己を確立することができる。
- C-2 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に対して負っている責任について理解し、説明することができる。
- C-3 実社会における生産活動を体験し、その経験を学生生活に反映することで、知識と技術とを結びつける、技術者としての役割を理解し説明することができる。
- C-4 技術者として自立するために、環境対策や新技術のコンセプトを説明できる。
- C-5 持続可能な社会を構築するためのエコテクノロジーについて説明することができる。

制御情報システム工学専攻

本専攻では、ソフトウェア、電気電子、ネットワークの技術を身につけ、これらを有機的に結びつけることにより、身近な利便性・効率性・信頼性そして持続的社会的形成を考慮した情報システム、電子システムあるいはそれらを複合・融合した電子情報システムが創生できる人材を育成します。このような人材育成目標に到達するために、所定の単位を修得し、かつ以下のような能力と素養を身につけた学生に修了を認定します。

- A 国際的な視野と倫理観に基づく価値判断ができる電子情報システム技術者
- A-1 文化や歴史を踏まえ国際社会で生じる様々な現象について総合的に把握することができる。

A-2 社会や環境に与える影響を考慮し経済的・倫理的な視点から考えることができる。

B ソフトウェア・ハードウェア・ネットワークのアーキテクチャ技術を身につけ、高度な情報化社会に貢献できる電子情報システム技術者

B-1 工学分野における諸現象のしくみを数学的・物理学的に理解できる。

B-2 電気・電子分野及び通信分野について理論的に説明できる。

B-3 情報分野について理論的に説明できる。

B-4 複合分野にわたる知識を身につけ有機的に結び付けることができる。

B-5 電気・電子分野及び情報分野のハードウェア・ソフトウェア実験・実習を通して、工学的に考察し活用することができる。

C ものづくりを通して、知能システムやユビキタス環境を設計・構築・提案できる電子情報システム技術者

C-1 日本語・外国語により書かれた文章を理解し、文章や口頭発表により表現することができる。

C-2 共通の制約条件の中、個人またはチームで計画的にPJを進め、創造的なシステムを実現し表現することができる。

C-3 新しいシステム・概念を創生し、表現することができる。

国際ビジネス学専攻

本専攻では、経営学に関する高度な専門知識とビジネスに関する実践的な能力を併せ持ち、企業・地域社会を取り巻く環境を分析し、それに適合するビジネスモデルを創生できる、環日本海地域ビジネスに関わるコーディネータ、プロジェクトマネージャを育成します。このような人材育成目標に到達するために、所定の単位を修得し、かつ以下のような能力と素養を身につけた学生に修了を認定します。

A 国際的な経営感覚と倫理観を持ち、環日本海地域を舞台に活躍できるビジネスパーソンとしての素養

A-1 文化や歴史を踏まえ国際社会で生じる様々な現象について総合的に把握することができる。

A-2 社会や環境に与える影響を考慮し経済的・倫理的な視点から考えることができる。

B ビジネスに関する問題の発見・解決に必要な知識と論理的思考力を身につけ、計画的に組織をマネジメントできる能力

B-1 ビジネスに関する専門知識について論理的に説明できる。

B-2 計画的に組織をマネジメントすることができる。

C 企業・地域社会を取り巻く環境を分析し、それに適合するビジネスモデルを創生できる能力

C-1 日本語・外国語により書かれた文章を理解し、文章や口頭発表により表現することができる。

C-2 企業・地域社会を取り巻く環境を分析できる。

C-3 適合するビジネスモデルを創生し、表現することができる。

海事システム工学専攻

本専攻では、陸上と船舶をつなぐ視点および陸上の視点から、物流・輸送システムやプラント等の設計・開発等の海事関連分野において、新たな物流・輸送システム、新たなプラント等の設計、開発などのグローバルな視点からシステム創生を担える海事技術者を育成します。このような人材育成目標に到達するために、

<p>所定の単位を修得し、かつ以下のような能力と素養を身につけた学生に修了を認定します。</p> <p>A 地球環境の視点と倫理観を持ち、国際性を身につけた海事システム技術者</p> <p>A-1 文化や歴史を踏まえ国際社会で生じる様々な現象について総合的に把握することができる。</p> <p>A-2 社会や環境に与える影響を考慮し経済的・倫理的な視点から考えることができる。</p> <p>B 海・船・物流等に係る知識・技術を身につけ、海陸の複合領域で活躍できる人材</p> <p>B-1 商船学分野における諸現象の仕組みを数学的・物理学的に理解できる。</p> <p>B-2 船舶運航に関する航海学，運用，主機関ならびに補助機関に関する分野について理論的に説明できる。</p> <p>B-3 自然界における諸現象の仕組みを工学的な視点から理論的に説明できる。</p> <p>B-4 海事法規，海事英語，商船実務など幅広い知識と技術を修得し，活用することができる。</p> <p>B-5 船舶とその運航に関する総合的な分野の実験・実習を通して，理論的に考察し，活用することができる。</p> <p>C 自然に優しく，人の営みを支える海事関連システムを設計・開発できる人</p> <p>C-1 日本語・外国語により書かれた文章を理解し，文章や口頭発表により表現することができる。</p> <p>C-2 個人またはチームで計画的にPJを進め，創造的なシステムを実現し表現することができる。</p> <p>C-3 新しい海事に関するシステムや概念を創生し，表現することができる。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.nc-toyama.ac.jp/about/aim/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	富山高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH29.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH29.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/H29jigyohokokusho1.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjiikenH30.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:平成31年度(2019年度))
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/nendo-h31.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.nc-toyama.ac.jp/about/evaluation/plan-2/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.nc-toyama.ac.jp/about/evaluation/3rdparty/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

<p>学部等名 機械システム工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/ms/?id=dp）</p>
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりや生産技術の基盤となる機械工学の知識を総合的に身につけ、機械設計、技術開発等を手がける技術者を育成します。 ・機械とシステム、機械材料、設計と生産、ダイナミクス、エネルギー、計測と制御に関する知識と、それらを問題解決に応用できる技術者を育成します。 ・機械工学的に考察する能力を身につけ、基礎からシステム構築までの総合的な見地から、新技術や新材料の開発・応用へと展開できる創造性・探究心豊かな技術者を育成します。
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/ms/?id=dp）</p>
<p>（概要）</p> <p>機械システム工学科は、機械系、機械システム系の知識、技術を総合的に学習し、機械設計、技術開発等を手がける創造性・探究心豊かな技術者の育成を目的とし、所定の単位を修得し、かつ以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機械を構成する材料の物性、製造方法、加工・生産技術や、機械設計に欠かせない材料、熱、流体、機械の力学、電気・情報処理など、幅広い知識と技術、応用力を身につけ、それらを応用したものづくりができる。 2. 課題発見能力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を持ち、他者と協働できる。 3. 豊かな教養と倫理観を身につけ、社会に貢献できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/ms/?id=dp）</p>
<p>（概要）</p> <p>機械システム工学科は、機械系、機械システム系の知識、技術を総合的に学習し、機械設計、技術開発等を手がける創造性・探究心豊かな技術者を育成します。具体的には、教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 低学年では、数学、物理、化学などの理系教養科目、および英語、国語、歴史などの文系教養科目を多く配置し、高学年に進むに従い機械工学、機械システム工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成します。 2. 機械を構成する材料の物性、製造方法、加工・生産技術や、機械設計に欠かせない材料、熱、流体、機械の力学、電気・情報処理など、幅広い知識と技術、応用力が身につくようにバランス良く授業科目を編成します。 3. 新しい技術を作り出し、社会に貢献できる総合的な能力を育成するために、実験・実習・基礎研究・卒業研究を系統的に編成します。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/ms/?id=dp）</p>
<p>（概要）</p> <p>求める学生像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機械・構造物、機械システムに興味がある人 2. 想像力豊かな機械技術者になりたい人 3. エネルギーからリサイクルまでのシステムを創造し、社会に貢献したい人 <p>選抜の基本方針</p> <p><input type="checkbox"/>推薦による選抜</p>

<p>推薦書及び中学校における調査書並びに面接の結果を総合して選抜します。</p> <p><input type="checkbox"/>学力検査による選抜</p> <p>中学校における調査書及び学力検査の結果を総合して選抜します。</p> <p>学力検査は、理科、英語、数学、国語及び社会の5教科による試験とします。</p>

<p>学部等名 電気制御システム工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/es/）</p>
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気、機械、情報工学を総合的に身につけ、創造的な技術開発ができる技術者を育成します。 ・工学の柱である電気と機械の専門知識を統合し、活用できる技術者を育成します。 ・電気工学的、機械工学的に考える能力を身につけ、数学、物理、化学に基づいた、「ものづくり」ができる技術者を育成します。
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/es/）</p>
<p>（概要）</p> <p>電気制御システム工学科では、電気工学・機械工学・情報工学の知識、技術を総合的に身につけた実践的技術者の育成を目的として、所定の単位を修得し、以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電気工学、機械工学、情報工学の知識、技術を総合的に身につけ、それらを応用したものづくりができる。 2. 課題発見能力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を持ち、他者と協働できる。 3. 豊かな教養と倫理観を身につけ、社会に貢献できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/es/）</p>
<p>（概要）</p> <p>電気制御システム工学科では、電気、機械、情報工学の知識、技術を総合的に学習し、ものづくり、創造的な技術開発ができる技術者を育成します。具体的には、教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 低学年では、数学、物理、化学などの理系教養科目、および英語、国語、歴史などの文系教養科目を多く配置し、高学年に進むに従い機械工学、機械システム工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成します。 2. 電気工学、機械工学、情報工学の3分野に亘る幅広い知識、技術と応用力、技術者として必要な技術者倫理が身につくようにバランス良く授業科目を編成します。 3. 新しい技術を作り出し、社会に貢献できる能力を育成するために、実験・実習・基礎研究・卒業研究を系統的に編成します。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/es/）</p>
<p>（概要）</p> <p>求める学生像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電子工作や機械工作などのものづくりに興味がある人 2. ロボット技術のように電気、機械、情報技術を融合した知識を身につけたい人 3. 創意工夫により新しい技術を作り出し、社会に貢献したい人 <p>選抜の基本方針</p> <p><input type="checkbox"/>推薦による選抜</p> <p>推薦書及び中学校における調査書並びに面接の結果を総合して選抜します。</p> <p><input type="checkbox"/>学力検査による選抜</p> <p>中学校における調査書及び学力検査の結果を総合して選抜します。</p> <p>学力検査は、理科、英語、数学、国語及び社会の5教科による試験とします。</p>

学部等名 物質化学工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/mc/?id=ap ）
（概要） ・ものづくりや生産技術の基盤となる機械工学の知識を総合的に身につけ、機械設計、技術開発等を手がける技術者を育成します。 ・機械とシステム、機械材料、設計と生産、ダイナミクス、エネルギー、計測と制御に関する知識と、それらを問題解決に応用できる技術者を育成します。 ・機械工学的に考察する能力を身につけ、基礎からシステム構築までの総合的な見地から、新技術や新材料の開発・応用へと展開できる創造性・探究心豊かな技術者を育成します。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/mc/?id=ap ）
（概要） 物質化学工学科では、所定の単位を修得して以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定します。 1. 物質化学の中心分野である有機化学，無機化学，分析化学，物理化学，生物化学の知識・技術を身につけ，それらに応用した物質創成や技術の開発ができる。 2. 課題発見能力，課題解決能力，プレゼンテーション能力を持ち，他者と協働できる。 3. 豊かな教養と倫理観を身につけ，社会に貢献できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/mc/?id=ap ）
（概要） 物質化学工学科は，化学，生物を基礎として，物質化学に関する基礎から最先端にいたる化学を総合的に学習し，環境保全を常に意識しながら，身につけた知識と技術を用いて社会に貢献できる倫理観を持った技術者を育成します。具体的には，教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。 1. 低学年では，数学，物理，化学などの理科系教養科目および英語，国語，歴史などの文科系教養科目を多く配置するとともに，技術者の有すべき倫理に係る授業を配置します。高学年に進むに従い有機化学，無機化学，分析化学，物理化学，生物・生命化学およびそれらの応用に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成します。 2. 有機化学，無機化学，分析化学，物理化学，生物・生命化学および材料化学，さらにエコテクノロジーや環境科学といった環境を意識した幅広い物質化学に関する知識と技術，応用力が身につくようにバランス良く授業科目を編成します。 3. 新しい有用物質や技術を作り出し，社会に貢献できる能力を育成するために，実験・実習・基礎研究・卒業研究を系統的に編成します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/mc/?id=ap ）
（概要） 求める学生像 1. 化学の世界に興味を持っている人 2. 地球と人にやさしいものづくりをしたい人 3. 持続的社会的構築に貢献したい人 選抜の基本方針 <input type="checkbox"/> 推薦による選抜 推薦書及び中学校における調査書並びに面接の結果を総合して選抜します。 <input type="checkbox"/> 学力検査による選抜 中学校における調査書及び学力検査の結果を総合して選抜します。 学力検査は、理科、英語、数学、国語及び社会の5教科による試験とします。

学部等名 電子情報工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/ei/ ）
（概要） ・システムからアプリケーションまでの総合的なプログラムが設計開発できる技術者を育成します。 ・センサからインターフェースを含む電子回路設計ができる技術者を育成します。 ・プログラムや回路を有機的に結びつけるネットワーク設計ができる技術者を育成します
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/ei/ ）
（概要） 電子情報工学科では、所定の単位を修得して以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定します。 1. 電気電子工学，情報工学，通信ネットワーク工学の知識・技術を身につけ，それらを応用したものづくりができる。 2. 課題発見能力，課題解決能力，プレゼンテーション能力を持ち，他者と協働できる。 3. 豊かな教養と倫理観を身につけ，社会に貢献できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/ei/ ）
（概要） 電子情報工学科では，電子工学，情報工学，通信ネットワークの知識，技術を総合的に学習し，ものづくり，創造的な技術開発が育成できる技術者を育成します。具体的には，教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。 1. 低学年では，数学，物理，国語，英語，社会などの一般教養科目を多く配置するとともに，高学年に進むに従いハードウェア，ソフトウェア，ネットワークに関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成します。 2. 電気電子制御システム，システムインテグレータ，ネットワーク通信システム分野に亘る幅広い知識と技術，応用力が身につくようにバランス良く授業科目を編成します。 3. 新しい技術を作り出し，社会に貢献できる能力を育成するために，実験・実習・基礎研究・卒業研究を系統的に編成します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/ei/ ）
（概要） 求める学生像 1. ものづくりが好きでコンピュータに興味がある人 2. 情報，電子，通信の総合技術を身につけたい人 3. 自ら考えて行動できるエンジニアになって，社会に貢献したい人 <input type="checkbox"/> 推薦による選抜 推薦書及び中学校における調査書並びに面接の結果を総合して選抜します。 <input type="checkbox"/> 学力検査による選抜 中学校における調査書及び学力検査の結果を総合して選抜します。 学力検査は、理科、英語、数学、国語及び社会の5教科による試験とします。

学部等名 国際ビジネス学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/ib/ ）
（概要） ・ビジネスに関する専門的な知識を身につけ、活用できる人材を育成します。 ・英語と、もう一つの外国語（中国語・韓国語・ロシア語）が使える語学力を身につけたビジネスパーソンを育成します。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/ib/ ）
（概要） 国際ビジネス学科では、所定の単位を修得して以下のような能力を身につけた学生に卒業を認定します。 1. 経営学，外国語と異文化理解，情報処理の知識，技能を総合的に身につけ，それらを応用したビジネス活動ができる。 2. 課題発見能力，課題解決能力，プレゼンテーション能力を持ち，他者と協働できる。 3. 豊かな教養と倫理観を身につけ，社会に貢献できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/ib/ ）
（概要） 国際ビジネス学科では，経営学，外国語と異文化理解，情報処理の知識，技能を総合的に習得し，地域社会と国際社会の両方を視野においてビジネス社会に貢献できる創造的なビジネスパーソンを育成します。具体的には，教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。 1. 低学年では，総合英語，環日本海諸国語，歴史，地理などの一般教養科目を多く配置するとともに，高学年に進むに従い，ビジネス，外国語，情報処理に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成します。 2. ビジネス，外国語，情報処理分野に亘る幅広い知識と技能，応用力が身につくようにバランス良く授業科目を編成します。 3. 新しいビジネスを創出し，地域及び国際社会に貢献できる能力を育成するために，英語圏と環日本海諸国語圏への海外異文化実習をはじめ，企業見学，プレゼンテーション，及び卒業研究などの教科横断的で能動的な学習経験を系統的に編成します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/ib/ ）
（概要） 求める学生像 1. 外国語や異文化に興味がある人 2. ビジネス分野の知識を身につけたい人 3. 国際的な視野をもって社会で活躍したい人 選抜の基本方針 推薦による選抜 推薦書及び中学校における調査書並びに面接の結果を総合して選抜します。 学力検査による選抜 中学校における調査書及び学力検査の結果を総合して選抜します。 学力検査は、理科、英語、数学、国語及び社会の5教科による試験とします。

学部等名 商船学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/cs/ ）
（概要） ・船舶の運航や船用プラント運用に必要なシーマンシップを身につけたグローバルな海技士を育成する。 ・海洋をフィールドとしてシステムの開発・構築・管理ができる技術者を育成する。 ・海洋環境を地球規模の視点で考えられるスペシャリストを育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/cs/ ）
（概要） 航海コースでは航海学、船舶運用学、海事法規、商船実務などを、機関コースでは主機・補機、電気・電子、機械、商船実務などの知識・技術を身につけ、それらを応用した船舶運航やマネジメントができる。 1. 経営学、外国語と異文化理解、情報処理の知識、技能を総合的に身につけ、それらを応用したビジネス活動ができる。 2. 課題発見能力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を持ち、他者と協働できる。 3. 豊かな教養と倫理観を身につけ、社会に貢献できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/cs/ ）
（概要） 商船学科では、海や船、港に関する知識や技術を総合的に学習し、海や陸で活躍できるスペシャリストを育成します。具体的には、教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。 1. 低学年では、理系教養科目および文系教養科目を多く配置し、高学年に進むに従い航海や船用機関に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成します。 2. 航海コースでは、航海学、船舶運用学、海事法規、商船実務などを、機関コースでは主機・補機、電気・電子、機械、商船実務など幅広い知識と技術、応用力が身につくようにバランス良く授業科目を配置します。 3. 船舶をフィールドとしたシステムの管理、構築を行って、社会に貢献できる能力を育成するために、実験・実習、乗船実習、基礎研究、卒業研究を系統的に編成します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/faculty/cs/ ）
（概要） 求める学生像 1. 海や自然が好きな人 2. 大型船の船長や機関長をめざす人 3. 大きな機械のエンジニアをめざす人 4. 世界中の国々で活躍したい人 選抜の基本方針 <input type="checkbox"/> 推薦による選抜 推薦書及び中学校における調査書並びに面接の結果を総合して選抜します。 <input type="checkbox"/> 学力検査による選抜 中学校における調査書及び学力検査の結果を総合して選抜します。 学力検査は、理科、英語、数学、国語及び社会の5教科による試験とします。

学部等名 エコデザイン工学専攻
教育研究上の目的（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/graduate/ed/?id=aim ）
<p>（概要）</p> <p>全ての技術は環境との共存に配慮しなければならないとの理念のもと、本専攻では、エンジニアに必要な工学全般の技術とともに、環境に配慮した技術、すなわちエコテクノロジーについて教育を行います。また、人・地球との共生の精神を理解し、グローバルエンジニアとしての素養を有する人材を育成します。本科教育で修得した基礎学力の上に高度化・複合化した教育を行うとともに、環境関連科目や工業倫理に関する共通科目を編成します。また、PBL教育、インターンシップ、特別研究を通じ、開発能力を有した創造的技術者を育成します。</p> <p>「エコデザイン工学」（「エコ」は、Environmental COnciousness（環境配慮）の頭文字から合成した言葉で、特定の技術を意味するものではなく、すべての技術が目指していくべき方向という意味）として、より高度化された複合的教育を実施します。</p>
<p>修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/graduate/ed/?id=aim）</p> <p>（概要）</p> <p>全ての技術は環境との共存に配慮しなければならないとの理念のもと、本専攻では、エンジニアに必要な工学全般の技術とともに、環境に配慮した技術、すなわちエコテクノロジーについて教育を行います。また、人・地球との共生の精神を理解し、グローバルエンジニアとしての素養を有する人材を育成します。このような人材育成目標に到達するために、所定の単位を修得し、かつ以下のような能力と素養を身につけた学生に修了を認定します。</p> <p>A 工学全般の基礎知識を有し、技術力に優れたグローバルエンジニアの育成</p> <p>A-1 英語による200語程度の短い技術文が書け、英語で技術に関する簡単なコミュニケーションをとることができる。</p> <p>A-2 設計・システム、情報・論理、材料・バイオ、力学、社会技術に関する基礎知識を理解し、簡単に説明することができる。</p> <p>A-3 実験を計画・実施し、データの正確な解析に基づいて工学的に考察し、かつ論理的に説明することができる。研究においては与えられた制約の下で必要な援助を得て計画的に研究を進め、期限内にまとめることができる。</p> <p>A-4 自分自身が伝えたい情報・意見を日本語で論理的に記述ことができ、またプレゼンテーションにおいて発表・討議することができる。</p> <p>A-5 工学的な諸問題に対処する際に必要な数学、自然科学及び情報の基礎的知識を理解し、それらを適切に活用することができる。</p> <p>A-6 核となる専門分野の既存技術を説明でき、社会から要求されている問題や実務上の問題を見出し設定することができる。</p> <p>B 広い視野を有し、将来、研究・開発をリードする能力を備えた人材の育成</p> <p>B-1 専攻科の特別研究や本科の卒業研究を通して、研究・学習状況の把握や記録を習慣づけ、自主的・継続的に学習することができる。</p> <p>B-2 自分とは異なった文化圏から来ている人々と交流し、他者・他国の立場にたって物事を考えることができる。</p> <p>B-3 日本語及び英語による技術論文を、著者の意図に沿って読解し、その内容を説明できる。</p> <p>B-4 正解が一つとは限らない問題に対して、グループで検討・考察し、問題点を抽出、実現可能な解を積極的に提案・評価することができる。</p> <p>B-5 工場見学を通じてその地域の産業構造を理解し、説明することができる。</p> <p>B-6 自分自身の生きている現代社会について、歴史を踏まえて経済・法律・習慣などの面から説明することができる。</p> <p>C 人・地球との共生の精神を有した人材の育成</p> <p>C-1 幸福・福祉や豊かさなどの多面的な概念を認識し、自己を確立することができる。</p>

C-2 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に対して負っている責任について理解し、説明することができる。
C-3 実社会における生産活動を体験し、その経験を学生生活に反映することで、知識と技術を結びつける、技術者としての役割を理解し説明することができる。
C-4 技術者として自立するために、環境対策や新技術のコンセプトを説明できる。
C-5 持続可能な社会を構築するためのエコテクノロジーについて説明することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/graduate/ed/?id=aim>)

（概要）

エコデザイン工学専攻では、「エコデザイン工学」として高度化された複合教育を実施する教育課程を編成しています。具体的には、教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。

1. 高専本科教育で修得した学力を基礎とし、さらに高度化・複合化した教育を行うために、英語関連科目、力学基礎、工学倫理、技術と環境などの共通科目を編成し、環境に配慮した技術を取り扱う技術者としての基礎を形成します。
2. PBL 教育やインターンシップを実施し、広い視野とコミュニケーション能力を醸成します。
3. シミュレーション工学特論、ロボット工学特論、エネルギー論、材料工学特論などの専門科目を編成し、専門分野への高度な技術に関する理解を深めます。
4. 実験・実習と特別研究を系統的に編成し、開発能力を有した創造的技術者を育成します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/graduate/ed/?id=aim>)

（概要）

本校専攻科では、幅広い豊かな教養と高度な専門知識を有する人材の育成を目指しています。このような方針に基づき、専攻科では次のような学生を求めています。

求める学生像（専攻科共通）

1. 専門の基礎学力をさらに深め、実践力と複眼的な視野を有するデザイン能力を身につけたい人
2. 研究・開発能力を身につけたいと考え、自主的、継続的に努力できる人
3. 社会人としての倫理を尊重し、グローバルな視野を有する専門家として貢献したい人

選抜の基本方針

推薦による選抜、学力検査による選抜及び社会人特別選抜

推薦による選抜

推薦書、調査書および面接検査（専門科目に関する口頭試問を含む）の結果を総合して判定します。

学力検査による選抜

入学者の選抜は、学力検査（英語（TOEIC スコアによる換算）、数学、専門科目）と調査書及び面接検査（専門科目に関する口頭試問含む）の結果を総合して判定を行います。

社会人特別選抜

学力検査（英語（TOEIC スコアによる換算））、調査書及び面接検査（口頭試問を含む）の結果を総合して判定を行います。面接においては、受験者が専攻科入学後に行いたい研究、もしくはそれに関連する実務経験について、パワーポイント等を用いて5分程度のプレゼンテーションを行い、その発表内容に関連した事項についての口頭試問を課します。

<p>学部等名 制御情報システム工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/graduate/cs/）</p>
<p>（概要）</p> <p>制御情報システム工学専攻では、本科で身につけたプログラム設計能力・電子回路設計能力、通信ネットワークに関する知識やものづくり技術をベースに、これらの理論的な裏づけを行う科目、様々な応用システムに関する科目を編成し、より高度な知識・技術を教授します。</p> <p>また、国際関係論、地域社会研究、経営戦略特論、技術者倫理・企業倫理等の科目を配置し、国際的・社会的視野、倫理観を涵養します。そして、企業や他の教育機関との共同教育、問題発見・解決力育成を目指したPBL教育、海外インターンシップ等の国際教育を行う科目を編成し、広い視野と柔軟な適応力を育成します。</p> <p>最終的に、身近な利便性・効率性・信頼性そして持続的社会形成を考慮した情報システム、電子システムあるいはそれらを複合・融合した電子情報システムが創生できる人材を育成します。</p>
<p>修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/graduate/cs/）</p>
<p>（概要）</p> <p>本専攻では、ソフトウェア、電気電子、ネットワークの技術を身につけ、これらを有機的に結びつけることにより、身近な利便性・効率性・信頼性そして持続的社会形成を考慮した情報システム、電子システムあるいはそれらを複合・融合した電子情報システムが創生できる人材を育成します。このような人材育成目標に到達するために、所定の単位を修得し、かつ以下のような能力と素養を身につけた学生に修了を認定します。</p> <p>A 国際的な視野と倫理観に基づく価値判断ができる電子情報システム技術者</p> <p>A-1 文化や歴史を踏まえ国際社会で生じる様々な現象について総合的に把握することができる。</p> <p>A-2 社会や環境に与える影響を考慮し経済的・倫理的な視点から考えることができる。</p> <p>B ソフトウェア・ハードウェア・ネットワークのアーキテクチャ技術を身につけ、高度な情報化社会に貢献できる電子情報システム技術者</p> <p>B-1 工学分野における諸現象のしくみを数学的・物理学的に理解できる。</p> <p>B-2 電気・電子分野及び通信分野について理論的に説明できる。</p> <p>B-3 情報分野について理論的に説明できる。</p> <p>B-4 複合分野にわたる知識を身につけ有機的に結び付けることができる。</p> <p>B-5 電気・電子分野及び情報分野のハードウェア・ソフトウェア実験・実習を通して、工学的に考察し活用することができる。</p> <p>C ものづくりを通して、知能システムやユビキタス環境を設計・構築・提案できる電子情報システム技術者</p> <p>C-1 日本語・外国語により書かれた文章を理解し、文章や口頭発表により表現することができる。</p> <p>C-2 共通の制約条件の中、個人またはチームで計画的にPJを進め、創造的なシステムを実現し表現することができる。</p> <p>C-3 新しいシステム・概念を創生し、表現することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/graduate/cs/）</p>
<p>（概要）</p> <p>制御情報システム工学専攻では、身近な利便性・効率性・信頼性そして持続的社会形成を考慮した情報システム、電子システムあるいはそれらを複合・融合した電子情報システムが創生できる人材を育成します。具体的には、教育目標に沿って以下のように教育課程を編成しています。</p> <p>1. 本科で身につけたプログラム設計能力・電子回路設計能力、通信ネットワークに関する知識やものづくり技術をベースに、これらの理論的な裏づけを行う科目、様々な応用シ</p>

<p>テムに関する科目を編成し、専門分野の高度な知識・技術を持つ技術者を育成します。</p> <p>2. 国際関係論、地域社会研究、経営戦略特論、技術者倫理・企業倫理等の科目を編成し、国際的・社会的視野、倫理観を涵養します。</p> <p>3. 企業や他の教育機関との共同教育、問題発見・解決力育成を目指した PBL 教育、海外インターンシップ等の国際教育を行う科目を編成し、広い視野と柔軟な適応力を育成します</p> <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/graduate/cs/）</p>
<p>（概要）</p> <p>求める学生像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門の基礎学力をさらに深め、実践力と複眼的な視野を有するデザイン能力を身につけたい人 2. 研究・開発能力を身につけたいと考え、自主的、継続的に努力できる人 3. 社会人としての倫理を尊重し、グローバルな視野を有する専門家として貢献したい人 <p>選抜の基本方針</p> <p>推薦による選抜、学力検査による選抜及び社会人特別選抜</p> <p>推薦による選抜</p> <p>推薦書、調査書および面接検査（専門科目に関する口頭試問を含む）の結果を総合して判定します。</p> <p>学力検査による選抜</p> <p>入学者の選抜は、学力検査（英語（TOEIC スコアによる換算）、数学、専門科目）と調査書及び面接検査（専門科目に関する口頭試問含む）の結果を総合して判定を行います。</p> <p>社会人特別選抜</p> <p>学力検査（英語（TOEIC スコアによる換算））、調査書及び面接検査（口頭試問を含む）の結果を総合して判定を行います。面接においては、受験者が専攻科入学後に行いたい研究、もしくはそれに関連する実務経験について、パワーポイント等を用いて5分程度のプレゼンテーションを行い、その発表内容に関連した事項についての口頭試問を課します。</p>

<p>学部等名 国際ビジネス学専攻</p> <p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/graduate/ib/）</p>
<p>（概要）</p> <p>国際ビジネス学専攻では、本科で身につけたビジネスに関する専門知識、外国語（英語、環日本海諸国語）の実践的運用力、情報リテラシーをベースに、経営学を中心としたビジネスに関する高度な専門知識を修得する科目やその専門知識を応用する科目を編成し、高度な知識と実践的な分析能力を持つ人材を育成します。ビジネスと関係の深い生産技術・輸送技術への理解を深め、ビジネスパーソンとしての広い視野を涵養します。また、海外インターンシップや環日本海ビジネス演習などの演習・実習科目を編成し、国際的な経営感覚、環日本海ビジネスの実態とそれを取り巻く環境を学びます。</p> <p>これらによって、企業・地域社会を取り巻く環境を分析し、それに適合するビジネスモデルを創成できる人材を育成します。</p>
<p>修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/graduate/ib/）</p>
<p>（概要）</p> <p>本専攻では、経営学に関する高度な専門知識とビジネスに関する実践的な能力を併せ持ち、企業・地域社会を取り巻く環境を分析し、それに適合するビジネスモデルを創生できる、環日本海地域ビジネスに関わるコーディネータ、プロジェクトマネージャを育成します。このような人材育成目標に到達するために、所定の単位を修得し、かつ以下のような能力と素養を身につけた学生に修了を認定します。</p> <p>A 国際的な経営感覚と倫理観を持ち、環日本海地域を舞台に活躍できるビジネスパーソンとしての素養</p> <p>A-1 文化や歴史を踏まえ国際社会で生じる様々な現象について総合的に把握することがで</p>

きる。

A-2 社会や環境に与える影響を考慮し経済的・倫理的な視点から考えることができる。

B ビジネスに関する問題の発見・解決に必要な知識と論理的思考力を身につけ、計画的に組織をマネジメントできる能力

B-1 ビジネスに関する専門知識について論理的に説明できる。

B-2 計画的に組織をマネジメントすることができる。

C 企業・地域社会を取り巻く環境を分析し、それに適合するビジネスモデルを創生できる能力

C-1 日本語・外国語により書かれた文章を理解し、文章や口頭発表により表現することができる。

C-2 企業・地域社会を取り巻く環境を分析できる。

C-3 適合するビジネスモデルを創生し、表現することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
<https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/graduate/ib/>）

（概要）

国際ビジネス学専攻では、教育目標に沿って、企業・地域社会を取り巻く環境を分析し、それに適合するビジネスモデルを創生できる人材を育成します。具体的には、教育目標に沿って以下のように教育課程が編成されています。

1. 本科で身につけたビジネスに関する専門知識、外国語（英語、環日本海諸国語）の実践的運用力、情報リテラシーをベースに、経営学を中心としたビジネスに関する高度な専門知識を修得する科目やその専門知識を応用する科目を編成し、高度な知識と実践的な分析能力を持つ人材を育成します。
2. 技術者倫理・企業倫理、港湾実務等の科目を編成し、ビジネスと関係の深い生産技術・運送技術への理解を深め、ビジネスパーソンとしての広い視野を涵養します。
3. 海外インターンシップや環日本海ビジネス演習などの演習・実習科目を編成し、国際的な経営感覚、環日本海ビジネスの実態とそれを取り巻く環境を学びます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：
<https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/graduate/ib/>）

（概要）

求める学生像

1. 専門の基礎学力をさらに深め、実践力と複眼的な視野を有するデザイン能力を身につけたい人
2. 研究・開発能力を身につけたいと考え、自主的、継続的に努力できる人
3. 社会人としての倫理を尊重し、グローバルな視野を有する専門家として貢献したい人

選抜の基本方針

推薦による選抜、学力検査による選抜及び社会人特別選抜

推薦による選抜

推薦書、調査書および面接検査（専門科目に関する口頭試問を含む）の結果を総合して判定します。

学力検査による選抜

入学者の選抜は、学力検査（英語（TOEIC スコアによる換算）、数学、専門科目）と調査書及び面接検査（専門科目に関する口頭試問含む）の結果を総合して判定を行います。

社会人特別選抜

学力検査（英語（TOEIC スコアによる換算））、調査書及び面接検査（口頭試問を含む）の結果を総合して判定を行います。面接においては、受験者が専攻科入学後に行いたい研究、もしくはそれに関連する実務経験について、パワーポイント等を用いて5分程度のプレゼンテーションを行い、その発表内容に関連した事項についての口頭試問を課します。

学部等名 海事システム工学専攻
教育研究上の目的（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/graduate/ms/ ）
<p>（概要）</p> <p>海事システム工学専攻では、本科で学んだ海事技術・地球環境・国際性を共通基盤分野として、海事システムの開発、設計を目指し、商船学及び理工学を主とした関連学問分野における高度な知識や技術についての科目を学びます。また、PBL 教育や海外インターンシップ等を取り入れ、問題の発見解決へのアイデアの着想からシステム的设计・開発までのシステム創生に必要な能力や実践的な語学能力の育成等、専門的能力と技術英語・数学物理学演習等の横断的基礎学力を有機的に結合し編成しています。これにより、物流・輸送システムやプラント等の設計・開発等の海事関連分野において、グローバルな視点からシステム創生を担える海事技術者を育成します。</p>
<p>修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/graduate/ms/）</p> <p>（概要）</p> <p>本専攻では、陸上と船舶をつなぐ視点および陸上の視点から、物流・輸送システムやプラント等の設計・開発等の海事関連分野において、新たな物流・輸送システム、新たなプラント等の設計、開発などのグローバルな視点からシステム創生を担える海事技術者を育成します。このような人材育成目標に到達するために、所定の単位を修得し、かつ以下のような能力と素養を身につけた学生に修了を認定します。</p> <p>A 地球環境の視点と倫理観を持ち、国際性を身につけた海事システム技術者</p> <p>A-1 文化や歴史を踏まえ国際社会で生じる様々な現象について総合的に把握することができる。</p> <p>A-2 社会や環境に与える影響を考慮し経済的・倫理的な視点から考えることができる。</p> <p>B 海・船・物流等に係る知識・技術を身につけ、海陸の複合領域で活躍できる人材</p> <p>B-1 商船学分野における諸現象の仕組みを数学的・物理学的に理解できる。</p> <p>B-2 船舶運航に関する航海学、運用、主機関ならびに補助機関に関する分野について理論的に説明できる。</p> <p>B-3 自然界における諸現象の仕組みを工学的な視点から理論的に説明できる。</p> <p>B-4 海事法規、海事英語、商船実務など幅広い知識と技術を修得し、活用することができる。</p> <p>B-5 船舶とその運航に関する総合的な分野の実験・実習を通して、理論的に考察し、活用することができる。</p> <p>C 自然に優しく、人の営みを支える海事関連システムを設計・開発できる人</p> <p>C-1 日本語・外国語により書かれた文章を理解し、文章や口頭発表により表現することができる。</p> <p>C-2 個人またはチームで計画的にPJを進め、創造的なシステムを実現し表現することができる。</p> <p>C-3 新しい海事に関するシステムや概念を創生し、表現することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/graduate/ms/）</p> <p>（概要）</p> <p>海事システム工学専攻では、物流・輸送システムやプラント等の設計・開発等の海事関連分野において、グローバルな視点からシステム創生を担える海事技術者を育成します。具体的には、教育目標に沿って以下のように教育課程を編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本科で学んだ海事技術・地球環境・国際性を共通基盤分野として、海事システムの開発、設計を目指し、商船学および理工学を主とした関連学問分野における高度な知識や技術についての科目を体系的に編成します。 2. PBL 教育や海外インターンシップ等を取り入れ、問題の発見解決へのアイデアの着想からシステム的设计・開発までのシステム創生に必要な能力や実践的な語学能力の育成等、専門的能力と技術英語・数学物理学演習等の横断的基礎学力を有機的に結合した教育課程

を編成します。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/departments/graduate/ms/）</p>
<p>（概要） 求める学生像 1. 専門の基礎学力をさらに深め、実践力と複眼的な視野を有するデザイン能力を身につけたい人 2. 研究・開発能力を身につけたいと考え、自主的、継続的に努力できる人 3. 社会人としての倫理を尊重し、グローバルな視野を有する専門家として貢献したい人</p> <p>選抜の基本方針 <input type="checkbox"/> 推薦による選抜、学力検査による選抜及び社会人特別選抜 推薦による選抜 推薦書、調査書および面接検査（専門科目に関する口頭試問を含む）の結果を総合して判定します。 学力検査による選抜 入学者の選抜は、学力検査（英語（TOEIC スコアによる換算）、数学、専門科目）と調査書及び面接検査（専門科目に関する口頭試問含む）の結果を総合して判定を行います。 社会人特別選抜 学力検査（英語（TOEIC スコアによる換算））、調査書及び面接検査（口頭試問を含む）の結果を総合して判定を行います。面接においては、受験者が専攻科入学後に行いたい研究、もしくはそれに関連する実務経験について、パワーポイント等を用いて5分程度のプレゼンテーションを行い、その発表内容に関連した事項についての口頭試問を課します。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/about/org/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
機械システム工学科	—	6人	6人	1人	2人	人	15人
電気制御システム工学科	—	6人	6人	人	2人	人	14人
物質化学工学科	—	6人	5人	1人	3人	人	15人
電子情報工学科	—	7人	5人	1人	人	1人	14人
国際ビジネス学科	—	3人	7人	1人	人	人	11人
商船学科	—	7人	4人	人	5人	人	16人
一般教養科	—	11人	10人	3人	3人	人	27人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		37人					37人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.nc-toyama.ac.jp/staff/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械システム工学科	40人	41人	102.5%	200人	215人	107.5%	若干人	2人
電気制御システム工学科	40人	43人	107.5%	200人	210人	105.0%	若干人	0人
物質化学工学科	40人	42人	105.0%	200人	212人	106.0%	若干人	3人
電子情報工学科	40人	43人	107.5%	200人	225人	112.5%	若干名	2人
国際ビジネス学科	40人	41人	102.5%	200人	217人	108.5%	若干名	1人
商船学科	40人	41人	102.5%	240人	241人	100.4%	若干名	0人
エコデザイン工学専攻	24人	28人	116.7%	48人	46人	95.8%	人	人
制御情報システム工学専攻	8人	14人	175.0%	16人	25人	156.3%	人	人
国際ビジネス学専攻	4人	3人	75.0%	8人	6人	75.0%	人	人
海事システム工学専攻	4人	5人	125.0%	8人	7人	87.5%	人	人
合計	280人	301人	107%	1320人	1404人	106%	人	8人

(備考) 機械システム工学科および物質化学工学科にそれぞれ3年次留学生を1人ずつ受け入れている平成30年度は1名受け入れ、5名在籍している。
国際ビジネス学科に3年次留学生を1人受け入れている。平成30年度は1名受け入れ、2名在籍している。

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械システム工学科	38人 (100%)	19人 (50.0%)	18人 (47.4%)	1人 (2.6%)
物質化学工学科	38人 (100%)	21人 (55.3%)	17人 (44.7%)	0人 (0.0%)
電気制御システム工学科	40人 (100%)	17人 (42.5%)	23人 (57.5%)	0人 (0.0%)
電子情報工学科	40人 (100%)	24人 (60.0%)	16人 (40.0%)	0人 (0.0%)
国際ビジネス学科	41人 (100%)	24人 (58.5%)	17人 (41.5%)	0人 (0.0%)
商船学科	33人 (100%)	9人 (27.3%)	24人 (72.7%)	0人 (0.0%)
合計	230人 (100%)	114人 (49.6%)	115人 (50.0%)	1人 (0.4%)
エコデザイン工学専攻	32人 (100%)	13人 (40.6%)	18人 (56.3%)	1人 (3.1%)
制御情報システム工学専攻	9人 (100%)	1人 (11.1%)	8人 (88.9%)	0人 (0.0%)
国際ビジネス学専攻	4人 (100%)	0人 (0.0%)	4人 (100%)	0人 (0.0%)
海事システム工学専攻	4人 (100%)	0人 (0.0%)	4人 (100%)	0人 (0.0%)
合計	49人 (100%)	14人 (28.6%)	34人 (69.4%)	1人 (2.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) (学科) 富山高専専攻科 / 北海道大学 / 東北大学 / 群馬大学 / 筑波大学 / 千葉大学 / 東京大学 / 東京工業大学 / 東京農工大学 / 新潟大学 / 長岡技術科学大学 / 富山大学 / 金沢大学 / 福井大学 / 信州大学 / 岐阜大学 / 名古屋大学 / 名古屋工業大学 / 豊橋技術科学大学 / 京都大学 / 奈良女子大学 / 大阪大学 / 神戸大学 / 広島大学 / 九州大学 等 アステラスファーマテック / 外務省 / 関西電力 / 協和ファーマケミカル / クラシエ製薬 / 経済産業省 / 高志インテック / コマツNTC / JR東海 / シキノハイテック / 商船三井 / SUBARUテクノ / 中部電力 / 東亜合成 / 東京電力 / 日本郵船 / 北陸電力 / YKK 等				
(専攻科) (主な進学先・就職先) (任意記載事項) 東京工業大学大学院/富山大学大学院/大阪府立大学大学院/筑波大学大学院/奈良先端科学技術大学院大学/長岡技術科学大学大学院/長岡技術科学大学大学院/朝日印刷/スギノマシン/アイザック/ダイト/YKK/不二越/田中精密工業/日医工/立山科学グループ/三協立山/スギノマシン/国際電気/富士化学工業/日産エンジニアリング/ファインネクス/アイシン新和/阪神化成工業/桑山/日東メディック/ミズノマシナリー/十全化学/陽進堂/石金精機/北陸電気工業/丸栄運輸機工/三浦工業/日本触媒/アマダホールディングス/日本曹達/東ソー・ゼオラム等				
(備考) https://www.nc-toyama.ac.jp/career/course/				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>設置者である独立行政法人国立高等専門学校機構（以下、高専機構）が、到達目標、ルーブリック、教育方法、授業計画、評価割合からなる全高専統一のシラバスフォーマットを作成している。シラバスの作成過程は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月中旬 高専機構にて年度更新 ・12月末まで 次年度授業計画一覧を作成し、それに基づき授業マスタ作成 ・新年1月末まで 各教員にてシラバス入力 3月末まで 高専機構にて入力状況（100%）を確認 4月1日 高専機構にてシラバス外部公開

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>本科卒業要件について、機械システム工学科、電気制御システム工学科、物質化学工学科、電子情報工学科、国際ビジネス学科においては、学則に定めるすべての必修科目の単位を含め167単位以上（一般科目は75単位以上、専門科目は82単位以上）を修得していること。商船学科にあっては、席上課程及び練習船による実習課程を修了していることとする。なお、席上課程の修了要件は学則に定めるすべての必修科目の単位を含め147単位以上（一般科目は75単位以上、専門科目は62単位以上）を修得していることとしている。最終学年の定期試験終了後、卒業要件ごとに修得単位を集計した卒業判定資料を作成し、教務委員会にてディプロマポリシーや修得単位数等を踏まえ卒業を認定している。</p> <p>専攻科修了要件は次のとおり。</p> <p>(1) 必修科目の単位をすべて修得していること。</p> <p>(2) 総単位62単位以上（このうち一般科目は8単位以上、専門科目は、エコデザイン工学専攻においては54単位以上、制御情報システム工学専攻、国際ビジネス学専攻、海事システム工学専攻においては44単位以上を修得。）。</p> <p>最終学年の定期試験終了後、修得単位を集計した判定資料を作成し、専攻科委員会にてディプロマポリシーや修得単位数等を踏まえ修了を認定している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械システム工学科	167 単位		
	電気制御システム工学科	167 単位		
	物質化学工学科	167 単位		

	電子情報工学科	167 単位		
	国際ビジネス学科	167 単位		
	商船学科	147 単位		
	エコデザイン工学 専攻	62 単位		
	制御情報システム 工学専攻	62 単位		
	国際ビジネス学専 攻	62 単位		
	海事システム工学 専攻	62 単位		
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.nc-toyama.ac.jp/about/campus/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	機械システム工 学科	234,600 円	84,600 円	通生約 55,000 円 寮生約 63,500 円	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ振興センター共 済掛金 1,550 円 (年額) ・寄宿料 8,400 円 (年額) 本郷 (男・女)、 射水 (女) 寄宿料 9,600 円 (年額) ・教材費 機械 : 約 53,500 円 電気 : 約 60,000 円 物質 : 約 48,500 円 電子 : 56,000 円 国際 : 39,000 円 商船 : 46,000 円
	電気制御システ ム工学科	234,600 円	84,600 円	通生約 61,500 円 寮生約 70,000 円	
	物質化学工学科	234,600 円	84,600 円	通生約 50,000 円 寮生約 58,500 円	
	電子情報工学科	234,600 円	84,600 円	通生約 58,000 円 寮生約 68,000 円	
	国際ビジネス学 科	234,600 円	84,600 円	通生約 41,000 円 寮生約 51,000 円	
	商船学科	234,600 円	84,600 円	通生約 48,000 円 寮生約 58,000 円	
	制御情報システ ム工学専攻	234,600 円	84,600 円	約 3,000 円	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ振興センター共 済掛金 1550 円 (年額) ・教材費 制御・国際・海事 : 1,300 円 エコ : 38,200 円
	国際ビジネス学 専攻	234,600 円	84,600 円		
	海事システム工 学専攻	234,600 円	84,600 円		
	エコデザイン工 学専攻	234,600 円	84,600 円	約 40,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ・授業料免除 高専機構の定めた範囲内で本校が許可をするものです。 学業成績が優秀で、経済的理由により修学が困難であると認められた者に対し、授業料の免除（全額又は半額）を行うことがあります。免除申請は、学期（前期・後期）ごとに行います。 ・就学支援金 高等専門学校 の1～3年生（在籍36ヶ月間まで）は、国の就学支援金制度の対象となります。この制度は、申請により学校が学生本人に代わって国から就学支援金を受け取り、授業料に充当する制度となっています。支給額は、保護者（学生の親権者）の市町村民税所得割額に応じて決まるため、入学時及び毎年7月に課税額確認の手続きが必要となります。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア教育の一環として、平成23年度より毎年1回企業研究会を開催しており、毎年100社を超える企業が本校に訪れ、学生との面談を行っている。また、4年生・専攻科1年生を対象にガイダンスとして就職セミナーを開催したり、低学年を対象に就職支援講座を開催したりすることで、進路選択に係る支援をきめ細かく行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健室と学生相談室を中心として、担任、学生主事、副校長との連携によって、学生の心身の健康等の支援に対して学校を上げて取り組んでいる。 学生相談室を設置し、キャンパスごとに相談員（教員）4～5名と看護師、カウンセラー（臨床心理士）を配置しており、学生のさまざまな悩みや問題について、学生が自分なりの答えを見つけられるよう、考えることができるよう支援を行っている。 必要であれば、校医の助けを借りることもできる。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.nc-toyama.ac.jp/about/publicinfo/education/>